

新幹線・観光誘客特別委員会 報告

1. 委員構成

委員長：山口 忠志

副委員長：荒谷 啓一

委員：若林 高、一色 眞一、南出 貞子、辰川 志郎、中谷 喜英、林 直史

2. 調査目的

北陸新幹線の持続的な開業効果と、観光客の誘客に向けた取り組みに関する調査・研究

3. 調査期間

令和6年9月25日～令和7年9月3日

4. 委員会等開催状況

	委員会	委員協議会	行政視察	意見交換会
令和6年	2回	2回	0回	1回
令和7年	5回	2回	1回	0回
合計	7回	4回	1回	1回

5. 協議・報告事項件数

13件（令和6年5件、令和7年8件）

6. 行政視察

令和7年1月30日～令和7年1月31日

○三重県多気町議会

・リゾート型複合商業施設「ヴィソン」について

○滋賀県東近江市

・観光誘客施策について



▲ヴィソン（多気町）



▲五個荘金堂の町並み（東近江市）

7. 調査の結果

当委員会では、令和6年3月に延伸開業した北陸新幹線の持続的な開業効果を図るための取り組みについて、また、コロナ禍や令和6年能登半島地震の影響で落ち込んだ観光客の誘客に向けた取り組みについて、調査・研究を行ってきた。

委員会においては、北陸新幹線延伸開業後の観光入込客数や、加賀温泉駅周辺施設整備等について当局から報告を受け、協議を行った。

観光入込客数については、コロナ禍前の水準に戻りつつあり、インバウンド需要は堅調に伸びているとのことであるが、加賀温泉郷を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いていると思われるため、様々な面から現状や課題を分析し、将来を見据えたより効果的な取り組みにつなげるよう当局に対し求めた。

駅前広場については、令和8年3月にグランドオープンが予定されているが、工事が計画通り進むのか、今後も当局の対応を注視していく必要がある。

令和6年10月には、黒部市議会観光・都市活性化特別委員会と、北陸新幹線開業を契機とした広域的な観光振興についての意見交換を行った。黒部市は黒部宇奈月温泉駅を有することから、芦原温泉駅を有するあわら市も含め、「温泉」がづく新幹線駅を有する自治体同士が連携することによる相乗効果が見込まれることから、今後の当局の取り組みに期待する。

令和7年1月に行った行政視察においては、加賀温泉駅周辺施設の魅力や利便性向上、インバウンド需要拡大などについて、調査・研究を行った。

そのような中、令和7年5月に、「加賀温泉郷観光地再生キックオフ式」が行われ、観光消費額1,000億円、観光客数400万人という大きな目標が掲げられた。400万人という数値は、過去最も加賀温泉郷に観光客が訪れていた時代と同等の水準である。当時と比較し旅行形態やニーズの変化、旅館数の減少、深刻な人手不足などの現状を踏まえると、非常に厳しい目標である。このような目標を達成するためには、行政・観光業界・地域が一体となって、持続可能な観光地づくり・観光誘客に取り組んでいくことが重要である。

北陸新幹線延伸開業という100年に一度とも言われる契機を逃さず、開業効果を最大限に引き出せるよう、一層の取り組みを進めていくことを期待する。